

令和7年度 長崎県立五島高等学校定時制学校評価

校訓	向学 磨け知性を 融和 語ろう理想を 進取 燃やせ気魄を
スクールミッション	<p>(1) どのような生徒を育成するのか 【社会的役割】 校訓「向学 融和 進取」のもと、社会が抱える様々な課題に向き合い、持続可能な社会の実現に向け、行動できる人材を育成します。また、正しい判断力、倫理観、協働的に取り組む態度を持ち、社会人としての自律の精神および基本的な生活態度と実践力を身に付けた人材を育成します。</p> <p>(2) どのような教育を目指すのか 【教育理念】 生徒の発達段階に応じたカリキュラムにより、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を育む教育を目指します。また、郷土を愛し、社会への理解を深め、地球環境に視野を広げる態度を育む教育を目指します。</p> <p>(3) 学科の特色、強み、魅力(独自の教育)等 【今後の方向性】 生徒一人ひとりの実態に応じて、わかる授業を展開し、個に応じた学習指導、進路指導の充実を図ります。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、地域の関係機関と連携を図るとともに、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援に取り組みます。</p>
定時制スローガン	時を守り 場を清め 礼を正し 来て良かった 行かせて良かった 五高定時制
重点努力目標	<p>(1) 挨拶の励行、適切な言葉遣いや端正な身なり、コミュニケーション力の向上を目指した生徒指導の充実</p> <p>(2) わかる授業や個に応じた指導の実践による基礎学力の向上</p> <p>(3) 各種検定への積極的な取組と、個に応じた早期からの進路指導の推進</p> <p>(4) 生徒一人ひとりが考え行動できる学校行事や生徒会活動の活性化及びふるさと教育の推進</p> <p>(5) 生徒一人ひとりを大切に教育相談の推進</p> <p>(6) 広報活動の充実</p>

【参考】<前年度(R6年度)の分析と改善策> <https://www2.news.ed.jp/shared/uploads/2025/03/1772012918.pdf>

分野	評価項目【担当】	◆目標/○具体的方策	過年度				R7	課題と問題点及びその改善策 ※評価の低い項目を中心に
			R3	R4	R5	R6		
学校経営	教育方針・努力目標【教頭】	◆学校の実態に即した方針や目標を設定・明示し、教職員や保護者・地域の理解の下、その具現化を図る。						
		① 前年度の評価結果や、自校の生徒の実態を踏まえ、適切な教育方針・努力目標を設定する。	3.8	3.8	3.9	3.9	3.8	
		② 教職員の共通理解の下、上記の教育方針や努力目標を生徒・保護者・地域に明確に示す。	3.8	3.7	3.8	4.0	3.8	重点目標(努力目標)は、HPのコンテンツに追加し明示した。
教科指導【教務】	◆「わかる授業」や「個別指導」の工夫により、基礎学力と基本的な学習内容の定着を図る。	① 学習内容を精選して、生徒の興味・関心、習熟度等に応じた「わかる」授業を展開する。	3.7	3.6	3.6	3.9	3.5	今年度は低学力生徒ほど欠課が目立ち、学習の遅れの要因となっている。学校を休ませない指導が必要である。
		② 生徒の実態に即した教科書・副教材、ICT教材等による効果的な指導法を取り入れる。	3.8	3.4	3.5	3.8	3.6	
		③ 必要に応じて個別指導や学習会を行い、就職・進学等に対応できる基礎学力を養う。	3.5	3.4	3.4	3.8	3.6	
総合的な探究の時間【教務】	◆ふるさとに対する誇りと愛着、ふるさとに貢献したいという意識を醸成する。	① 明確なねらいをもとに学習活動計画を作成するとともに、地域の人材や関係機関との連携を図る。	3.8	3.8	3.6	3.9	3.5	
		② 毎時間「振り返りシート(統一様式)」による生徒自己評価を行い、活動を充実させる。	3.7	3.6	2.9	3.0	2.8	毎時間の統一様式でなく、適宜振り返りの時間をとって生徒自己評価を行うようにする。
特別活動【生徒会】	◆HR活動・生徒会活動・学校行事を効果的に実施し、生徒の自主的・協働的な活動を促す。	① 「個」を理解し、各種行事において生徒個々がその特性を発揮できる機会を設ける。	3.1	3.2	3.9	3.9	3.6	今後さらに生徒個々の特性が発揮できるような機会を考えていきたい。
		② 生徒の自主性や協働性を引き出すという視点から、生徒会活動や諸行事の充実を図る。	3.0	3.0	3.9	3.9	3.9	今後も全ての生徒の自主性や協働性が引き出せるよう、充実した活動にしていきたい。
生徒指導【生徒指導】	◆生徒の安心・安全を確保し、個性尊重のもと、全教職員で基本的な生活習慣を身につけさせる。	① 遅刻・欠席、言葉遣いや授業規律、容儀等の指導を通して、時・場・礼を理解した言動に導く。	3.2	2.9	3.5	3.5	3.3	容儀指導や日常の生徒との関わりの中で、挨拶や正しい言葉遣いについて粘り強く指導していく。
		② スマホやタブレット等の利用マナーやルールを守り、自他の人格を尊重する態度を育成する。	3.7	3.3	3.9	3.8	3.3	情報モラル教育の充実とともに、利用上のマナー指導を徹底する。校内での使用場所などを指定し、周知する。
		③ 車体点検や交通安全講話、二輪車実技講習会の実施により、交通事故ゼロを目指す。	3.8	3.8	3.5	3.8	3.9	新年度から自転車の交通違反に対し青切符が適応されることを受け、生徒・保護者に対し、変更内容等の周知と啓発を行う。
進路指導【進路指導】	◆早期からの系統的・効果的な進路指導を行い、卒業予定者の希望進路の実現を図る。	① 「進路のしおり」や「キャリアパスポート」を活用し、早期から進路意識を育成する。	3.5	3.0	2.9	3.1	3.1	卒業予定者で活用している。その他の生徒への活用について検討していきたい。
		② 各種検定への積極的な受検を促し、資格取得とともに自己肯定感の向上につなげる。	3.0	3.9	3.6	3.6	2.9	商業科教員の欠員による影響が大きい。受検環境づくり(本校での受検)が困難であった。
		③ アルバイト就業率を向上させ、社会への適応力を養うとともに、卒業後の就職につなげる。	3.6	3.8	3.3	3.8	3.5	
		④ 模擬面接や学科試験対策など(個別指導)を充実させ、各自の進路実現に必要な力を養う。	3.1	3.0	2.9	3.6	3.6	
健康・安全教育・保健相談・特別支援教育【保健相談】	◆心身の健康増進を図るとともに、早期治療や体調管理など健康や安全に対する態度を醸成する。	① 定期的な生徒情報の共有とともに、問題解決に向けて保護者やSC・SSW、関係機関との連携を図る。	3.9	4.0	3.9	4.0	4.0	
		② 保護者・関係機関と連携し疾病の早期発見・治療に努め、保健だよりを通して啓発的指導を行う。また、生活習慣(食事やリズム)に対する啓発的指導を行い、健康増進を図る。	3.6	3.7	4.0	4.0	4.0	
		③ 清掃活動を通して、環境美化意識と環境保全への意識向上を図る。	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	学期ごとの大掃除やボランティア清掃(生徒会)を通して環境への意識を高めていく必要がある。
人権・同和、道徳教育【教務】	◆人権尊重に関する様々な課題を認識させ、自ら学び・考える態度および思いやりの心を育成する。	① 時宜を得た講話や適切な資料等を使用して、啓発的指導を行う。	3.3	3.5	3.6	3.9	3.9	
		② 人権・同和、発達障害研修など、各種研修会に積極的に参加し、本校の教育活動に還元する。	3.2	3.5	3.1	3.1	3.5	
定通併修制度【教務】	◆鳴滝高校通信制との併修制度利用によって、卒業単位修得を促す。	① 1年生・保護者への制度周知と、2・3年生の併修生に対する履修状況の確認、必要な指導・支援を行う。	3.1	3.9	3.6	3.9	3.8	
		② 定通併修制度による「3カ年修了」の対外的な広報に努める。	3.7	3.6	3.6	3.9	3.9	

組織運営	校務分掌	◆適切な役割分担による仕事の処理および組織的な活動と運営を推進する。								
		① 適切な役割分担のもと、前年度の各分掌の課題を確認し、その解決を図るよう努力する。	3.3	3.3	3.7	3.9	3.9			
	② 組織的・計画的に資料等の保存を行うとともに、分掌間の連携により業務を円滑に遂行する。	3.5	3.4	3.6	3.9	3.6				
	各種委員会	◆目的に応じた適切な委員会の設置と、その活動の効率化と活性化を図る。								
		① 働き方改革の一環として、各委員会の効率的な運用を図る。	3.4	3.5	3.7	3.8	3.9			
	職員研修	◆組織的・計画的な研修体制づくりと研修への積極的な参加により、教職員の資質向上を図る。								
① 計画的に授業参観や研究授業等の機会を設け、授業改善・教育実践力の向上に努める。		3.2	3.3	3.8	3.4	3.5				
② 他の教育機関（小・中・特支など）の研修にも積極的に参加し、本校の教育活動に還元する。		2.7	2.9	3.2	3.1	3.3			引き続き、中高連絡協議会教科部会の機会を活用する。	
教育環境	学校環境の整備・施設設備の管理	◆教育活動が円滑に行われ教育効果が上がるように、学校環境、施設設備の整備を図る。								
		① 学校環境や施設設備について、定期的に安全点検や補修・購入等を行い、有効に活用する。	3.6	3.9	4.0	3.9	3.8			
	情報・インフラの整備・充実	◆パソコン等を使った校務処理を積極的に推進するとともに、情報セキュリティを徹底する。								
		① パソコン等の整備を進め、ICT機器やクラウドサービスの効果的な活用について研修等を推進する。	3.8	3.9	3.6	3.5	3.3			
		② 個人情報の管理や、情報資産の校外への持ち出し禁止などのルールを全職員が遵守する。	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0			生徒の私有端末の持ち込みが始まることを踏まえ、ICT教育担当者と連携してルール作りの必要がある。
開かれた学校づくりと志願者増への取組	保護者との連携	◆PTA活動の充実を図るとともに、生徒に関する情報を相互に提供する協力体制を確立する。								
		① 学校と保護者が緊密に連絡・情報提供を行い、生徒の生活指導・進路指導に活かす。	3.6	3.6	3.7	3.9	4.0			
	地域や関係機関との連携	◆地域や関係機関との連携を深めるとともに、外部講師など地域教育力の積極的な活用を図る。								
		① 地域や関係機関との連携により、在籍生徒に対する適切な理解と支援に結びつける。	3.6	3.7	3.6	4.0	3.9			
		② 地域教育力を活用し、人生観、職業観、郷土愛などを育むような講話・講習の機会を設ける。	3.7	3.7	3.6	4.0	3.8			
	情報提供の充実	◆教育方針や教育活動、学校評価の結果などの情報を保護者・雇用主・地域へ積極的に提供する。								
① 学校だより「星空の城」の発行やHPの更新により、定時制の魅力や情報を発信する。		3.9	4.0	4.0	4.0	4.0				
② PTA総会や学校説明会などの機会に紹介できるよう、学校紹介の内容を工夫・充実させる。		3.9	3.7	3.9	3.9	3.6				
③ 地域の中学校に対して、本校定時制入学の利点に関する情報を積極的に提供する。	3.8	3.6	3.8	4.0	3.9					
最優先課題	基礎学力の定着	◆基礎学力の定着とその評価体制を整える。								
		① 「基礎学力考査」が生徒の実態のチェックとフィードバックに資するものとなるように、基礎学力についての議論を深め、より良く改善していく。		3.0	3.3	3.3	3.1			
	卒業後の「生きる力」「生き抜く力」の育成	◆卒業後の就職定着のために必要となる、生徒のコミュニケーション力の向上を図る。								
① 対人関係形成力向上に資する目標を個別に設定して指導し、その評価・改善を行う。			2.9	3.1	3.1	3.5				
平均										
			3.5	3.5	3.6	3.7	3.6			

<今年度(R7年度)の分析と改善策>

I 3.0を下回ったもの

項目①	(総合的な探究の時間)毎時間「振り返りシート(統一様式)」による生徒自己評価を行い、活動を充実させる。(2.8)
分析と改善策	上記の改善策に示したように、統一様式ではなく活動内容に即した「振り返りシート」の活用に変更する。また、項目の文言にある「(統一様式)」を削除する。
項目②	(進路指導)各種検定への積極的な受検を促し、資格取得とともに自己肯定感の向上につなげる。(2.9)
分析と改善策	商業科教員の配置を前提に、近隣校と連携を図りながら、受検を促す環境整備に努める。

II 評価が3.0以上ではあるが前年度より0.3以上下がった項目

項目①	(教科指導)学習内容を精選して、生徒の興味・関心、習熟度等に応じた「わかる」授業を展開する。(3.5:昨年度比-0.4)
分析と改善策	生徒が主体的に学びに向かうための「授業づくり」の一助となる職員研修を設定し、今求められる授業のあり方に関する再構築を促す。
項目②	(総合的な探究の時間)明確なねらいをもとに学習活動計画を作成するとともに、地域の人材や関係機関との連携を図る。(3.5:昨年度比-0.4)
分析と改善策	生徒各自が課題を設定して取り組んでいるが、地域人材や関係機関とのより効果的な連携を模索したい。
項目③	(生徒指導)スマホやタブレット等の利用マナーやルールを守り、自他の人格を尊重する態度を育成する。(3.3:昨年度比-0.5)
分析と改善策	生徒によるSNS等の利用に対する、現場の懸念や危機感が数値に表れたと理解している。今後も継続的に見守っていききたい。

令和7年度総括

<p>標記の職員による学校評価においては、「3.6」と例年と遜色ない高い評価であった。「3.0」を下回った2項目については、次年度に改善できる内容のため、速やかに対応していきたい。また、前年度より「0.3」以上下がった3項目については、とくに項目①の教科指導の評価に着目すると、学力層の幅が大きい状況下における授業づくりに対して、授業者の達成感不足が要因のひとつだと考えられる。次年度は、授業改善等の一助となる職員研修を実現させ、生徒が主体的に取り組む学習環境の整備につなげたい。</p> <p>生徒アンケートについては、前年度と同値の「3.4」であったが、3項目で「0.3」以上の向上が見られた。それでも項目「17」「18」については、平均値より低いいため、主権者としての立場を自覚を促す取り組みを模索していきたい。項目「7」については、過去5年で最も高い評価になっており、本校としても安堵している。最大の要因は、上記の重点努力目標(4)が具体化できており、学校運営に関して生徒自身の満足度が高いからだと推察している。次年度以降も、高い評価が継続できるよう努めていきたい。</p> <p>保護者アンケートについては、「3.6」と例年と遜色ない高い評価であり、本校の教育活動に対して一定の評価をいただいていると自負している。しかしながら、項目「11」は平均値を大きく下回っている。この評価に関しては、教員の学校評価で先述した教科指導の評価「3.5」及び生徒アンケートの項目「11:基礎的な学力が身についていると思う」の評価「3.2」との関連性が考えられる。これら2項目の評価が高まれば、学習に関する家庭内での対話が増え、保護者による高い評価につながる事が予想されるため、職員研修による相乗効果を期待したい。</p>
